

学習指導過程 1 学習目標の把握 ← 学習指導過程 2 学習目標の達成に向けた見通し ← 学習指導過程 3 学習目標の達成に向けた理解・練習 ← 学習指導過程 4 学習目標の達成のための言語活動 ← 学習指導過程 5 学習のまとめと振り返り

<p>主体的な学び</p> <p>A 生徒が英語に触れる機会を十分に確保し、英語で互いの考えや気持ちを伝え合うなどのコミュニケーションの機会を充実させるために、授業は英語で行い、授業が実際のコミュニケーションの場面となるようにする。</p> <p>D 単元全体を通して、生徒にどのような力を付けたいのか、また、そのためにどのような言語活動を行うのかについて、逆向き設計で具体的な学習指導計画を立てる(マンダラチャートやコンセプトマップなどを活用して、単元計画を可視化する)。</p> <p>E コミュニケーションの目的や場面、状況、方法等をに分かりやすく示すために、実演やビジュアル教材の活用によるモデルの提示を行う。</p> <p>F コミュニケーションの必然性があるオーセンティックな活動を設定する。</p> <p>G 学習内容と自分自身を関連付けて捉えさせ、ビジュアル教材やTeacher Talkで、題材に係る情報を生徒から引き出ししたり、背景知識を与えたりする。</p> <p>H 単元を見通した学習計画を示し、単元目標の達成に向けて、英語を使って何をやるのかについて生徒と共有する。</p> <p>I 教師と生徒が、具体的な学習活動のゴールを共有するために、CAN-DOリストやRubricなどを活用する。</p> <p>J 実演や作品の紹介などを行いながら、単元目標の姿を可視化して示し、個々の生徒に単元を通した学習到達目標を立てる場を設定する。</p> <p>K 生徒の実態に合わせ、学習到達目標の達成や学習課題の解決に向けた効果的な学習方法を提示したり、自分で考えさせたりする場を設定する。</p>	<p>L 習得した語彙・表現や文法などの、実際のコミュニケーションにおける活用がイメージできるように、Teacher Talkやビジュアル教材などでモデルを提示する。</p> <p>M 単元目標の達成に必要な英語表現を、自分自身と関連付けて捉え、意味のある文脈でのコミュニケーションにおいて、繰り返し聞いたり読んだりしながら習得することができるようにする。 例) ・Teacher Talkでの生徒とのやり取り ・Word Mapping ・Word Game (クロスワードパズル、間違い探し、連想ゲーム、クイズなど)</p> <p>R 学習活動を行う目的や手順、学習到達目標、学習のポイントなどは、口頭による説明だけでなく、絵やリストなどの視覚的補助を用いて可視化して示したり、実演や具体例の提示を行ったりするなど、生徒の実態に即した示し方をする。</p> <p>S 生徒の学習に対する興味・関心を引き出すために、生徒の実態や学習の目的に応じた教材(内容、語彙レベル、量、題材の背景などに配慮)を選択することや、それに伴う資料の使い方、提示の仕方などを工夫する。</p>	<p>B 英語を使ってコミュニケーションを図ることを楽しみ、間違えることを恐れず学習することができる雰囲気づくりを行う。 例) 英語を使う必然性のある活動の設定(ゲーム性のある活動、課題解決型の活動、クリエイティブな活動など)、具体的な称賛や激励、支持的風土づくり、楽しく学ぶ雰囲気づくり、学習方法の提示、修正の仕方やタイムン</p> <p>N コミュニケーションを行う必然性があり、学習した内容と関連付けながら、複数の技能を組み合わせて行う言語活動を設定する。 例) ペアトーク、Reproduction、Q&A Making、T or F Quiz Making、Skit Making、なりきり日記、Read between the Lines、Picture Describing、Comment Writingなど</p> <p>O 帯学習で、場面設定を変えながら既習内容を繰り返し使う機会を設け、生徒が自身の成長を実感したり、達成感を味わったりすることができるようにする。</p> <p>P 動画記録や作品を、正確さや流暢さ、内容の質など、視点を持って振り返らせ、自分の現在の力を自覚したり、向上に向けて改善を図ったりすることができる場を設定する。</p> <p>T 生徒の実態(語彙レベル、量、興味など)に応じた言語活動を設定し、生徒の変容に合わせ、スモールステップで活動やワークシートのレベル、指導・支援の手立て(発問、お助けシート、活動内容の示し方など)を調整する。少しレベルの高い活動にも挑戦しながら、ステップアップできるよう配慮する。</p> <p>U 学習課題解決の手順やヒント、辞書やお助けシート、インターネットの活用方法など、自力で課題を解決するために必要となる情報やツールをあらかじめ提示しておく。</p>	<p>C 実際に英語でコミュニケーションを図る体験を通して、英語を学習する目的や意義、必然性などに気付くことができるようにする。 例) ネイティブスピーカーとの交流活動の設定、オーセンティックな教材の使用など</p> <p>Q コミュニケーションにおいて意識する点について、リスト化して確認させたり、モデルを提示して生徒に考えさせたり気付かせたりする場を設定する。</p> <p>V 個々の生徒の習得や理解の状況を把握するために、生徒の発話やノート・ワークシートの記述などの見取りを視点(内容、適切さ、正確さ、発音、文構成など)を持って行い、具体的な称賛やアドバイスを通して、生徒の学習意欲を喚起する。</p> <p>W CAN-DOリストやRubricなどを活用し、学習における目的の提示や目標の設定を行う。振り返りを通して、生徒が自身の学びの成果を具体的に、そして視覚的に捉え、次の学習につなげたり、効果的に学んだりすることができるような場を設定する。</p> <p>X 活動の途中に、教師やクラスメートからのフィードバックを基に、自分の理解度を確認したり、発話や作品の内容について見直したりすることを通して、気付かせ、修正、工夫ができる場を設定する。</p>	<p>Y 動画記録や成果物、チェックリストなどから、知識や技能の習得について具体的に振り返り、生徒が学習活動や自身の変容を自覚して、次の学習における目標を定めることができる場を設定する。</p> <p>Z 学習を通して習得した知識や技能を使って、実際に英語で表現したり理解したりする活動に取り組みせながら、何が分かり、何ができるようになったかについて実感できる場を設定する。</p>
<p>対話的な学び</p> <p>A 設定されたコミュニケーションの場面について、ペアやグループで自分の体験を紹介し合ったり、知っていることについて情報を交換したりしながら、題材に関わる知識を充実させることができる場を設定する。</p> <p>B 学習到達目標の達成や学習課題の解決に向けた効果的な学習方法について、ペアで意見を交換し、参考にしたり、話し合いを通してよりよい方法を見付け出したりすることができる場を設定する。</p> <p>C Teacher Talkでは、生徒にとって理解可能なレベルの表現から、少しレベルが高い表現までおまぜて使用し、教師の話や、本や記事などを聞いたり読んだりして、語彙・表現や文法などを習得することができる場を設定する。</p> <p>D 教師やクラスメート、様々なネイティブスピーカーの発話や作品、本や記事などを聞いたり読んだりして、語彙・表現や文法などを習得することができる場を設定する。</p> <p>E 読んだり聞いたりして得た情報を、整理して人に伝えたり、書いてまとめたり、人とやり取りしたりして、学習内容を深め、知識や技能を習得することができる場を設定する。</p> <p>J ペアやグループで協力して解決する必然性があり、学習課題の解決を通して、互いに学び合うことができる場を設定する。</p> <p>K ペアやグループでの活動では、相手の発話をよく聞いて理解しようとして、相手に伝わるような話し方をしたりするなど、相手意識をもって行わせる。</p> <p>L ペアやグループにおける話し合いやフィードバックのやり方や目的、視点、また協働活動時のルールなどを、可視化して具体的に示す。</p>	<p>F ペアやグループで動画記録や作品を見せ合い、互いに気付いたことや感想などについて伝え合うことを通して、何ができていて、何が課題かについて気付いたり、よりよいものを作り上げるためのヒントを得たりすることができる場を設定する。</p> <p>G 活動の途中で、学習内容の理解についての確認や、発話・作品の内容についての見取りから気付いたことを、クラス全体で共有し、個々の生徒が自分の修正・再構築に生かすことができる場を設定する。(良い例から学ばせる、間違いや改善点に気付かせるなど)</p>	<p>H コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を考え、相手意識を持って発表ややり取りを行うよう促す。</p> <p>I 互いのパフォーマンスや成果物について、CAN-DOリストやRubricなどを活用して互いに評価を行わせ、自他共に、学習の成果や次の学習につながる改善点などについて、具体的に自覚することができるような場を設定する。</p>	<p>M ペアやグループで、できるようになったことや今後の改善点、抱負などについて、具体的にコメントを述べ合うことを通して、自覚を深めたり、新しい発見をしたりできる場を設定する。</p> <p>N 学習を通して理解したことについて、人に説明することを通して、内容を整理したり、理解度を確かめたり、新たな改善点に気付いたりすることができる場を設定する。</p> <p>O 学習を通して習得した知識や技能を使ってペアで対話をし、学習内容について理解を深めることができる場を設定する。</p> <p>P 掲示板や教科通信を活用して、学習の成果を共有し、同学年又は学年を越えて学び合うことができる場を設定する。</p>	<p>M ペアやグループで、できるようになったことや今後の改善点、抱負などについて、具体的にコメントを述べ合うことを通して、自覚を深めたり、新しい発見をしたりできる場を設定する。</p> <p>N 学習を通して理解したことについて、人に説明することを通して、内容を整理したり、理解度を確かめたり、新たな改善点に気付いたりすることができる場を設定する。</p> <p>O 学習を通して習得した知識や技能を使ってペアで対話をし、学習内容について理解を深めることができる場を設定する。</p> <p>P 掲示板や教科通信を活用して、学習の成果を共有し、同学年又は学年を越えて学び合うことができる場を設定する。</p>
<p>深い学び</p> <p>A 生徒が自身の体験や既知の情報と関連付けながら深く考えることができるようなオーセンティックな教材の準備、学習課題の設定、発問などを行う。</p> <p>B 前回までの学習における動画記録や成果物などを基に、現在の学習到達状況を把握し、これからどのような力を身に付ける必要があるのかを考える場を設定する。</p> <p>C CAN-DOリストなど具体的な視点を持つことができるリストを活用し、現在身に付けている知識や技能に加え、何が分かり、何ができるようになりたいのか考え、学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>D 既知の知識や情報などを手掛かりに、推測しながら英語を理解することができるようにする。</p> <p>E 生徒の気付かせや意見を引き出したり、生徒に深く考えさせたりすることができる発問を行う。</p> <p>F 授業をインタラクティブに展開し、自然なコミュニケーションの場面における、教師とのやり取りや生徒同士の情報交換などを通して、思考や発話を促しながら、複数の技能を組み合わせることで実際に英語を使う経験を積み重ねることができるようにする。</p> <p>G 実際に知識や技能を活用する中で、自他との対話や他との比較を通して、自分の考えを見直したり、修正したり、新しい学びを加えたりしながら、学習内容を深く理解できるような活動を設定する。 例) ・話して伝えた内容を書いて再現し、構成や正確さなどを確認する。 ・一度書いた原稿を視点(相手、場面、表現や構成の適切さ、正確さなど)を持って見直し、教科書や辞書、インターネットを使って調べたことなどを活用して、よりよいものになるよう再考・修正に取り組む。 ・動画記録を撮り、視点をもった振り返りを基に、改善に向けた練習を行う。</p> <p>H 授業や家庭学習において、授業で学んだことを繰り返し活用したり、既知の情報と関連させて理解したりすることができる場を設定する。 例) ・内容に関連する語彙・表現を集め、イメージマップを作る。 ・話を聞いたり読んだりする前に、キーワードやビジュアル教材などを手掛かりに話の内容を推測し、キーワードを使いながら話したり書いたりする。 ・読んだり聞いたりして理解した情報を整理して、メモやコンセプトマップを作る。 ・読んだり聞いたりしながら簡単なメモを取り、メモを頼りに他の人に伝えたりやり取りしたりする。 ・本文の内容と異なる表現を含んだ文を読ませ、間違いを見付けさせる。 ・学習した語彙・表現や教科書本文などのモデル文などを参考にオリジナルの英文を作り、話したり書いたりする。 ・本文の内容について理解したことを基にした表現活動を行う。 (Q&A Making、T or F Quiz Making、Reproduction、Comment Writing、Read Between the Lines、Picture Describingなど)</p> <p>I CAN-DOリストやRubricなどを活用し、コミュニケーションの場面に求められる力を、複数の面(適切さ・正確さ・技能など)から示し、具体的な振り返りを通して学習到達状況や改善点を明確に自覚することができるようにする。</p>	<p>F 授業をインタラクティブに展開し、自然なコミュニケーションの場面における、教師とのやり取りや生徒同士の情報交換などを通して、思考や発話を促しながら、複数の技能を組み合わせることで実際に英語を使う経験を積み重ねることができるようにする。</p>	<p>J キーワードや視覚的資料を頼りに、習得した知識や技能を「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」などにおいて活用し、学習到達状況を確認する場を設定する。</p> <p>K 自分の変容や課題について自覚し、今後の学習につなげられるよう、動画記録や成果物、CAN-DOリストなどを活用した振り返りを行う場を設定する。</p>	<p>J キーワードや視覚的資料を頼りに、習得した知識や技能を「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」などにおいて活用し、学習到達状況を確認する場を設定する。</p> <p>K 自分の変容や課題について自覚し、今後の学習につなげられるよう、動画記録や成果物、CAN-DOリストなどを活用した振り返りを行う場を設定する。</p>	<p>J キーワードや視覚的資料を頼りに、習得した知識や技能を「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」などにおいて活用し、学習到達状況を確認する場を設定する。</p> <p>K 自分の変容や課題について自覚し、今後の学習につなげられるよう、動画記録や成果物、CAN-DOリストなどを活用した振り返りを行う場を設定する。</p>